ふみびと

第２７４号
発行所
文通村事務局
編集　広報部
千葉県成田市

繋がる安心感 小さなことから

『どうぞ』の思い

日中に車に乗っていると、どうしても渋滞がつきもの。片側一車線しかない道路だと、なかなか右折できなくて後ろの車に申し訳なくて焦ってくるもの。

そんな時に向こう側からヘッドライトをパッと照らして道を譲ってくれることが多いのが、トラックやバスなどのプロのドライバーの方。自分のことだけでなく、渋滞を和らげようとしてくれているかのように、道路全体を見ているようで「プロ」の誇りのようなものを感じます。

そんな方たちのようにありたいと、逆の立場の時は道を譲るようにしているのですが、その時に対向車からもパッシングでお礼の「意思」を受け取ると、譲ったこちらもなんだか嬉しい気持ちになるものです。

言葉で直接お礼を言われるわけではないけれど、どこかで繋がっているような気がする。

そんな瞬間の声のないコミュニケーションが、少し渋滞の焦りを温かさに変えてくれるような気がします。

たった一台の車に先を譲る。

ほんの数秒あればできることでも、急いでいたり渋滞している時は、なかなかそんな気持ちの余裕も生まれないもの。それでもそのほんの数秒を誰かに譲ることで、次に他の誰かが自分も譲ってあげようと思う気持ちになったとしたら、どこかでまた他の誰かの気持ちのゆとりを生んでくれるのかもしれません。

声を出して言葉でお礼が言えない中で、それでも譲る気持ちと感謝の気持ちを何とか表現しようと生まれた「どうぞ」と「ありがとう」の合図。どこかで誰かと繋いでくれる。

きっとこれもひとつのコミュニケーションの「かたち」

爽やかな風を背に

心地よい日差しの中に、爽やかな風が吹く。過ごしやすい季節だ。伸び伸びと葉を広げる植物を見ると、自分も成長したい気持ちになってくる。まるで季節が背中を押してくれるような。挑戦といっても、大袈裟なことでなくてもいい。いつも通り過ぎるだけの角を曲がってみるだとか。いつもは読まない本を手に取ってみるだとか。スーパーで買ったことのない食材を買ってみるだとか。その挑戦で何かが大きく変わるようなことはなくてもいい。一度の挑戦が運命を変えてしまう、なんてことはそうは起こらない。やっぱりいつも通りの方がいいな、という結論になることも多いだろう。それでも、かまわない。たとえがっかりする結果になっても、「ためしてみよう」と思った時の新鮮な気持ちは、なかったことにはならないはずだ。爽やかな風は、そう思わせてくれる。

風船便

風にゆられて誰かに届け！

風船便はいつでも誰でも参加できますが、その受取は新規の方へ優先されます。

誰に届くかは風次第…。送り方は簡単♪下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名にと「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。あとは、事務局の筒に同封下さい。で流すと交通局返信用封筒にの始まりです。

次回発送日

５月の次回発送日は通常通り31日です。送りたいお手紙がある場合には、それぞれ２日前（29日）までに事務局に到着することを確認の上、余裕をもってポストに投函してください。

編集後記

大きく変わった日常が、変わらない日常になりつつありますが、文通村では今までもこれからも、手紙のある穏やかな時間が流れています。人と物理的な交流ができずとも、精神的に心がほっとする時間をお楽しみください。